

川崎市議会議員(麻生区選出、無所属) <http://www.tsukimoto.info>

月本たくや

レポート【第 18 号】



月本たくやレポート編集部

〒215-0031 川崎市麻生区栗平 1-5-32 ベアーズハイム 101
TEL : 044-986-6010 FAX : 044-986-6011 Email : mail@tsukimoto.info

タッチパネルからのバス情報発信

平成 26 年度の川崎市の予算が 3 月 24 日に成立しました。

昨年のアベノミクス効果と市民人口が増加したことによる個人住民税の増、地価の上昇による固定資産税の増、消費税増税による国からの支出金の増等の歳入増が見込まれることを背景に、予算規模が大きくなっています。

しかし、阿部前市長が 12 年の改革の成果として、政令指定都市で財政力指数 1 位になっているものの、扶助費の増大や根本的な地方財政制度の構造から、決して豊かとは言えないのが実情です。

そんな中、毎年 10 数億円の赤字を抱える市バス事業ですが、生活交通の維持という観点から直営で残っているわけですが、そもそも直営がベストなのでしょうか？

赤字分は一般会計から繰り入れされている、いわば、市民の税金で赤字を補っています。

しかし、市バスが 2 路線しかない麻生区内には広範囲で交通不便地域が存在し、高石地区の山ゆり号を始めとした地域でコミュニティバスの導入・維持・拡充の要望が挙がっています。

そんな中、横浜市バスの事例をモデルとして、タブレットを数か所のバス停に設置して、利便性向上を目指すという新規予算が計上されたので、以前から提案しているタッチパネルによるバス情報案内システムを導入すべきという観点で質問しました。

そこで、今回のレポートでは、タッチパネルのバス情報案内の必要性と目標設定についての提案を書かせて頂きます。

分かりやすい、バス利用環境を

川崎市の人口は増加していますが、バス利用者数は減少傾向にあります。その理由の一つとして挙げられるのは、バスが利用しづらいということです。



例えば、新百合ヶ丘南口のバスターミナルでもあることですが、途中まで同じ経路や同じバス停に停車したりする例があります。しかし、どのバスが一番早く目的地に着くか？遅延している場合に次はどのバスが先に着くか？と言うことが分かりにくい現状があります。

分かりやすい表示や見やすい情報により利用しやすいバス停を目指し、各バス会社の運行情報を共有した、情報サービスを導入すべきです。

探せる情報案内を

利用しやすい情報提供サービスとして、韓国ソウル市の事例『Uシェルター』が挙げられます。

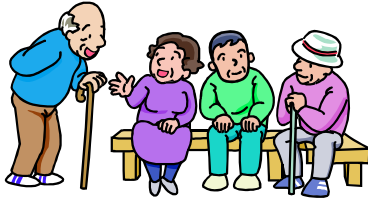


バス停に大画面のタッチパネルがついていて、バスの運行状況や周辺情報をタッチパネルで検索でき、4か国語に対応しています。これに音声案内を加えることで、さらに利用対象が拡大できます。

パソコンはちょっと難しいというご高齢の方でも、タッチパネルだと銀行の ATM で利用されているため、比較的抵抗が少ないと思われます。

音声案内も加えた電子情報案内板を設置することで、こどもたちからお年寄りまで、障がいのある方にも外国人の方にも、みんなが利用しやすい案内になります。

また、各バス会社の運行情報の共有により、携帯電話やスマートフォンといった端末で情報検索の一元化が進めば利便性がさらに向上します。



利便性から得られるもの

ここまで、タッチパネルによるバス会社の運行情報の共有を書いてきましたが、これらのシステムの導入・提案はなぜ必要なのでしょう？

まず、バスの利用者が増加すれば渋滞の緩和になります。道路に代表されるハード整備だけでは多くの費用と時間がかかりますが、このようなシステムを導入すれば、例えば、朝夕や休日の新百合ヶ丘のように車が集中する時間帯の交通量緩和につながる可能性があります。

次に、ユニバーサル化という言葉がありますが、「誰もが利用できる」という意味で、障がいのある方や外国人の利用も拡大します。すると、初めて訪れた人にとっても利用しやすく、国内外から

の来訪者にとって印象に残ることでしょう。

まちづくりの基本インフラとしての交通が誰もが暮らしやすい地域への第一歩となり、地域の経済への効果も期待できます。

目標時期を 2020 年に

タッチパネルのバス情報案内の導入を始めとした情報共有ができるシステムづくりは、それぞれのバス事業者の事情や考え方がさまざまであるため、これまで調整を進めていても、進捗が厳しい状況にあります。しかし、東京オリンピック・パラリンピックの招致が決定したことを契機に、2020年を目標に設定し、この時期に向け、官民一体となって調整を進めて行くべきと考えます。



川崎市は、東京都に隣接しているため、2020年には多くの選手や関係者、観光客等が訪れるため、世界中の人が誰でも利用しやすいまちであると感じてもらえれば、まちづくりの手法やバス情報案内システムを世界に売り込むビジネスチャンスにもつながります。

川崎市は、東京都に隣接しているため、2020年には多くの選手や関係者、観光客等が訪れるため、世界中の人が誰でも利用しやすいまちであると感じてもらえれば、まちづくりの手法やバス情報案内システムを世界に売り込むビジネスチャンスにもつながります。

そのためにも、2020年に目標設定すべきと提案し、費用や時間的負担がかかるところを賢い手法で解決し、新たな効果を生む、スマートなまちを目指しましょう。

インターネットでも情報配信中！



月本たくやホームページ

<http://www.tsukimoto.info>

ブログ、対談、これまでの月本たくやレポートなど適宜更新しています。



Facebook

アカウント名: 月本琢也

<https://www.facebook.com/takuya.tsukimoto>



Twitter

アカウント名: 月本たくや

Twitter@Tsukimoto_Info

月本たくやプロフィール

昭和 53 年 大阪府豊中市生まれ。神奈川大学法学部法律学科卒業後、建築設備メーカーに就職。

川崎市市長 阿部孝夫 政務秘書、衆議院議員 山内康一 公設第二秘書（麻生区・国会担当）等を経て、平成 23 年 川崎市議会議員初当選。交渉会派最年少団長、川崎市農業委員（議会推薦）、議会運営委員、議会運営検討協議会委員等を経て、平成 25 年 5 月より無所属。

現在 川崎市議会議員（麻生区選出、市民委員会） NPO 法人防災・防犯ネットワーク理事・麻生支部長

麻生区白鳥在住 家族：妻と共働き世帯

月本たくや政務調査事務所

麻生区栗平 1-5-32 ベアーズハイム 101 号

TEL 044(986)6010 FAX 044(986)6011

月本たくや

検索

